



児童保育施設「しらかわっこなかよしクラブ」で働く中村さん。先生として、また1人の人として対等に子どもたちと接しています。大切にしているのは、子どもの時の感覚と、子どもの話をしっかりと聞くこと。親しみをこめて「とんちゃん」と呼ばれる中村さんの周りにはいつも子どもたちが集まり、教室は笑顔で溢れています。

Public relations
OZU TOWN



4
APRIL 2019

大津のことがもっと好きになる情報誌
広報
おおづ



「自分ではない
誰かになる感覚は、
他では味わえないですね」

なかむら ともよ
中村 朋世さん（室）

3度目の春が来る――

広報おおづ 2019 4

発行・編集 大津市・総務課
〒869-1292 熊本市菊池地区大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>
印刷 R100 印刷 株式会社
※広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物インクを使用しています。

UD FONT
易やしく読みまちがえにくい
コンピューターフォント
を採用しています。

昨年上天草を中心に撮影された映画「声」。悩みながらも自分らしく生きる準主役を熟演した中村朋世さん。仕事で子どもたちと接する傍ら役者としても活躍する彼女にクローズアップする。

夢は漫画家。物心ついた時には絵を描き、絵は文字と同じくらい描くものと思っていた。専門的に絵を学びながら、「大勢の中に溶け込んでいけない自分」「笑われているように感じる不安」を漫画で表現したいと、つらい感情に向き合い、漫画のために悶々と考える日々。そんな中、幼稚園・児童保育で働き始め、子どもたちと出会った。笑って泣いて、全力で感情を表現する子どもたちと幼かった自分を重ねてふと思う。「子どもの頃に感じた不安や恐怖って、無意識に今に影響している、自分を形成する礎の一部になっていると思うんです」。接してみると、子どもたちは一人の人間で、対等に話せる立派な思考を持っていて、純粋に悩んで戦っている。「あの頃、完全に自分が悪くて全て自分のせいだと思っていたことが全部、誰が悪いでもなかったんだなってやっと解って、そうして初めて、子どもの頃の自分が報われた気がして。子どもたちが人生を一気に彩ってくれました」とほほ笑む。平成28年、現在所属する劇団ゼーロンの会の座長に出会う。「出会った瞬間、お互いに『やっと出会えましたね』と。この人は面白いと直感で分かりました」。翌日、劇団の演目の顔合わせに呼ばれ、改めて座長と顔を合わせ、演劇の道へ進むと腹を決めた。「演劇はどこでも描ける」。初めての役は男性。役作りで筋肉をつけ、低くするため声もつぶした。今も声が低いのはその名残。「演じる時は、自分の根底にある感情を口の中に手を入れてガツと引き出す感じです。演技後は役の感情を引きずるけど、次の日はリセットされています」。相手に自分を重ねて表現するのは、漫画と同じ。出会いを経て、表現者として自分らしくできないことを自分のタイミングで届ける。彼女は次にどんな表情を見せてくれるのだろうか。

こゝろの声

▼熊本地震から3年。その時の自分の行動を思い出そうとしても時系列が曖昧になっていました。この機会に書き出してみようと思えます▼剣道の掛かり稽古で指導者に向かい、押されても押されてもぶつかって行く生徒たちをカメラに収める……何かと真剣に取り組む姿は素敵です。何歳になっても忘れたくないと思いました▼クローズアップの中村さんはモデルとしても活動。撮影では「表情でカメラを割ってやる！」と緊張を乗り越えるそう。発想が面白い。映画「声」ではふいに見せる儂げな表情がとても魅力的。Denkikanで4月5日7日上映されますので、ぜひご覧ください(UE) QRコード 登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。

からいもくん便り
大津町総合情報メール
携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。

今月のみどころ

特集 あの日から3年



震災を忘れない

行楽スポットに出かけよう!

